

説明資料(第2稿)での記載箇所	章項目	5.7.2	ページ	p.70 p.70 p.71 p.71 p.72	行	13行目 31行目 9行目 30行目 6行目
事業名	土砂移動の連続性の確保の検討		河川名	各ダム		
府県		市町村		地先		

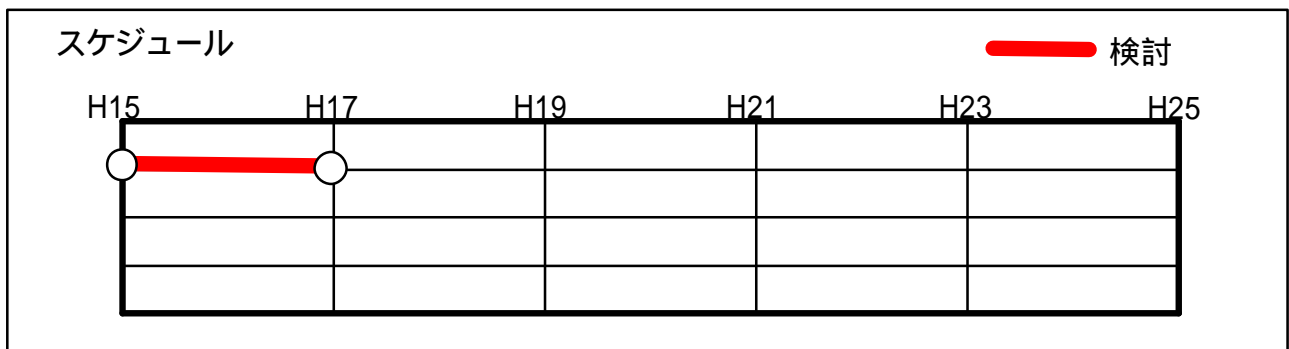
現状の課題
ダムなどの横断工作物による土砂移動の連続性の遮断が、下流河川の一部区間で河床材料の変化を招き水生生物の生息環境に影響を与えているところもある。

調査検討の方針
ダムなどの横断工作物により遮断されている土砂移動の連続性を確保するための方策を講じ、河床の改善や復元を図るよう検討する。

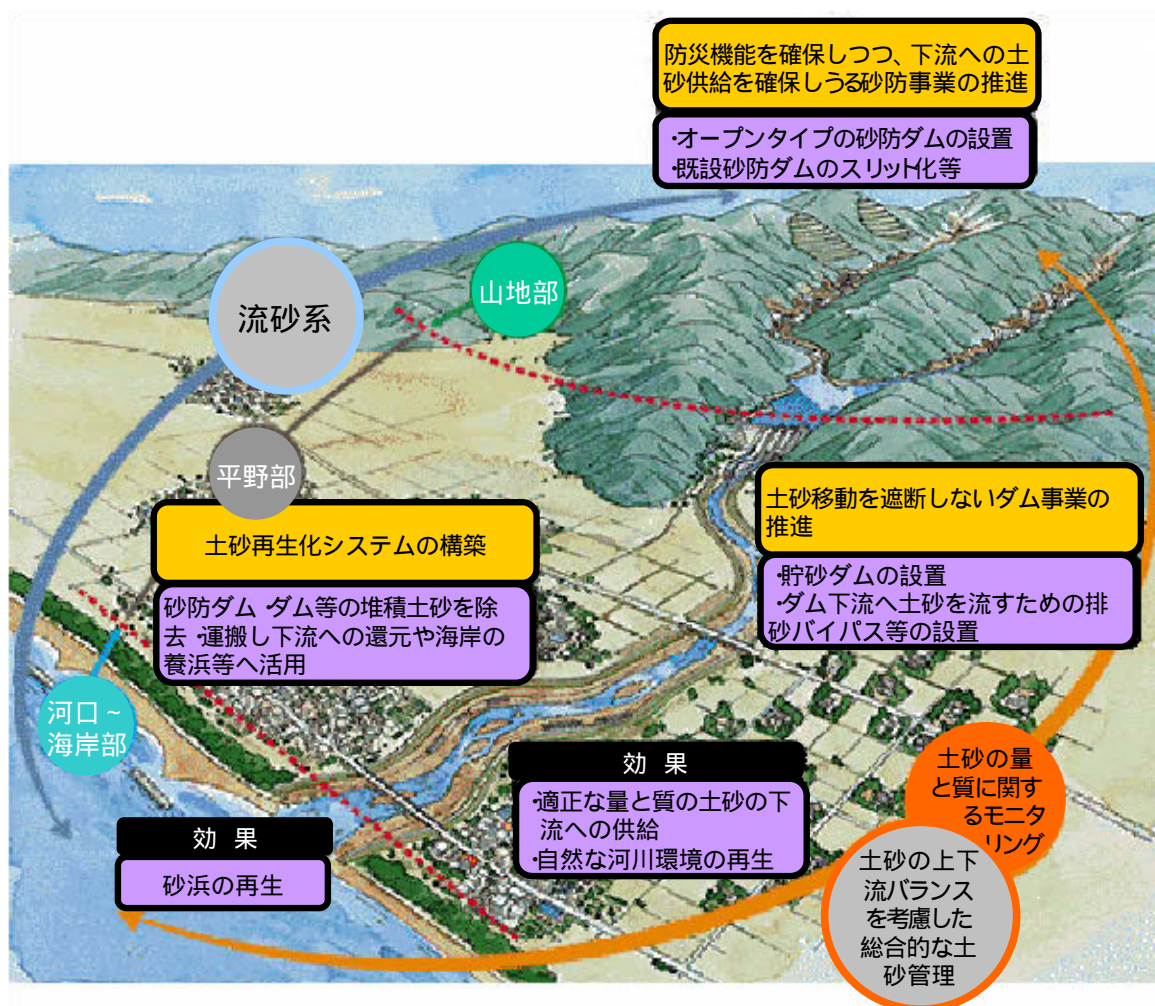


具体的な調査検討内容
・土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う

検討内容
 ・ダム下流の河床材料の調査
 ・ダム下流河道の河床変化の予測
 ・下流土砂供給の検討
 ・土砂補給方法の検討
 ・供給量
 ・供給場所
 ・供給頻度



土砂移動の連続性のイメージ図



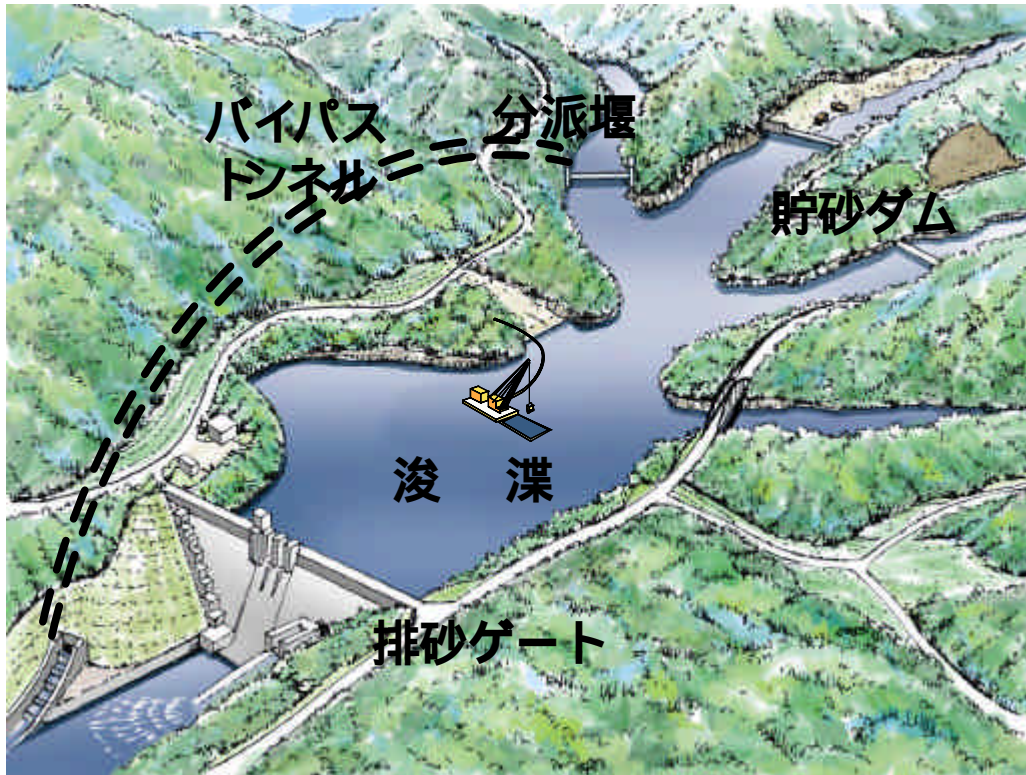
土砂移動の連続性の必要性

大規模な人工構造物であるダムは、大量の水を貯めると同時に大量の土砂を貯め、流砂系における土砂移動の連続性を遮断し、下流への土砂供給量を減少させる施設となっている。

土砂移動の連続性を進める上では、ダムの目的を損なうことなくダムから土砂を排出し、適正に下流に土砂を流すための施策を検討することが必要不可欠である。

今後は、水系全体の土砂移動のバランスを回復し、かつ効率的な対応を図ることを目的とした水系一環総合土砂管理が必要となる。

ダム堆砂対策のイメージ図

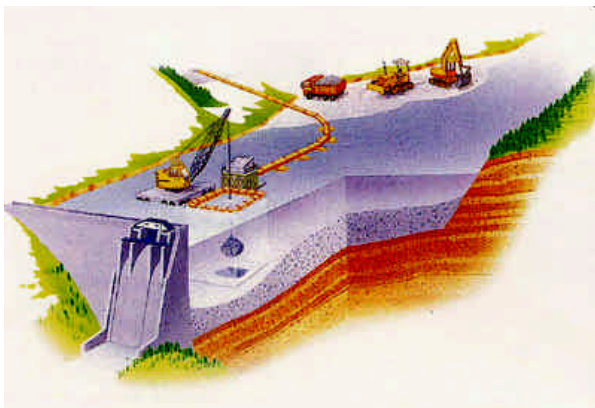


貯砂ダムによる対策



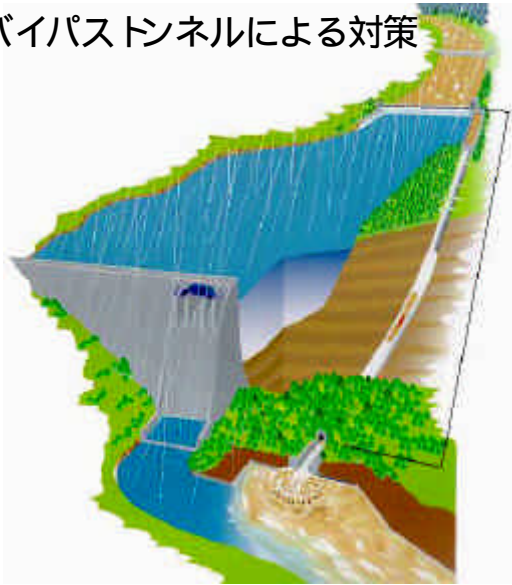
貯砂ダムを用いる方法は、中小洪水あるいは非洪水期に貯砂ダムの背水により土砂を沈降堆積させ、ダム貯水池の運用による水位低下後に土砂の排出を行う。

浚渫・掘削による対策



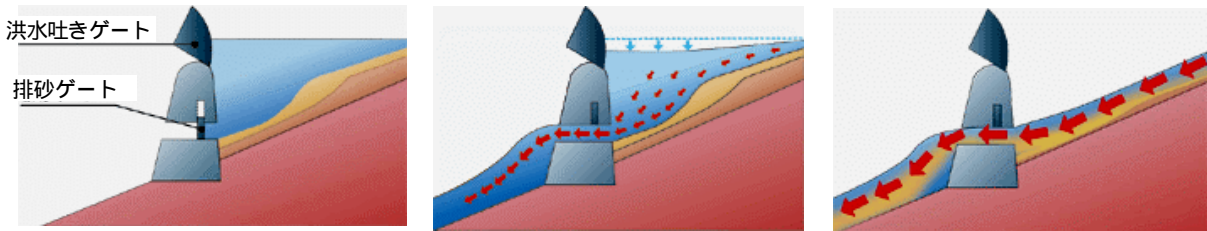
貯水池内の堆積土砂を掘削あるいは浚渫により人工的に排出するもので、多くの貯水池で実施され、掘削した土砂の一部は建設骨材として利用されている。

バイパストンネルによる対策



土砂は貯水池に入ると堆積するので、貯水池にはいる前に流れを迂回路(通常はトンネル)に導き、直接ダム下流に放流すれば、土砂は貯水池に入らず、ダムの堆砂を無くすことができ、同時に下流に従前の土砂供給を行うことができる。

排砂ゲートによる対策



堤体に設けられた排砂設備を用いる方法で、洪水時に水の力を利用してダム湖に貯まった土砂を下流にフラッシュさせる。

具体的調査・検討のフロー

1. 下流河川の河床材料調査を行い、現状を整理。



2. 下流河道の河床変化の予測。



3. 下流土砂供給の検討。



4. 土砂供給方法の検討。

- ・土砂供給方法の検討
 - ・貯砂ダム+搬出運搬
 - ・排砂バイパス等
- ・土砂の供給量、供給時期、供給場所の検討
- ・搬出運搬の場合の土砂供給候補地の検討